熱き血潮 「汝が故郷 明に身は溢れる 郷は 何処 れ に いども ありや」

希望を胸 ^{むてみ} 朔風に身を寄せ漂泊 胸に行方も知られ かくえ い。出い れ ず でん

聳ゆるポ。 遙かな大地は何語るらん プラは何か をか象徴

!の地に理想を秘めて

逍遙 の詩静寂に透 'n

朱に染まらん哉原始の森は しゅ

・ たなげんし もり 日輪幽寂に手稲の端にてにちりんしずかでいね 曠野を一人ゆく吾 佇 め

> 白るがね 鳴ぁ 呼ぁ 熱き心を語り明かせよ 己身に嘆けども憂愁はやまず ア寮友 の季節寮舎に在りて よ夕の瞑想のいる

の故郷と りて

北溟の大地は我が故郷かきただいちょうないない 新緑にみる自然の黙示しんりょく

> 関 Πĺ 哲夫 君 作 Ш

佐.

藤 守

君

作 歌